

同志社クローバー祭2019 11月2日(土)・3日(日)

京田辺キャンパスで盛大に開催される恒例イベントです。

同志社ローム記念館プロジェクトも全チーム参加、皆様のご来場をお待ちしています。



2019年度 同志社ローム記念館プロジェクト 最終成果報告会 2020年2月29日(土)

各プロジェクトが1年間の活動や成果を発表し合います。それぞれの特色を生かして行う、熱のこもったプレゼンテーション、趣向を凝らしたポスターセッションは、同志社ローム記念館ならではのイベント。ぜひご来場ください!



編集後記

プロジェクトには、「絶対失敗しない方法」や「正解」は用意されていない。状況を見て、自分の頭で考え、人と議論し、必死に取り組むしかない、面倒で大変な活動である。でも、だからこそおもしろい、自分の変化や成長を感じられる瞬間に必ず巡り合うものだ。

一問一答では片付かない日々の課題に向き合って考え、失敗しながら乗り越えていくのは大人も同じ。プロジェクトメンバーの成長のために、どんな環境を整えればよいか…

プロジェクトに取り組む彼らが自分達の目標を掲げて活動するように、ルールやしくみの一つひとつ、プログラムの一つひとつについて、何を提供し、何を提供しないかを考え、毎年、毎回、状況に合わせて目標を変えて組み立てる。これは私達支える側にとってのプロジェクトでもある。

これから、ここに集まる人たちと「プロジェクト」を楽しみ、ともに成長し続けていきたいものだ。

(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 西村 ひろみ)



表紙の人

東雲 由樹 さん

同志社大学 理工学部
インテリジェント情報工学科2年次生

友人と参加した短期プロジェクト。自分達のアイデアをなんとか形にしたい、と1年生ながらリーダーとなり、取り組んだ日々。学部も学年も多様なチーム編成でミーティングの設定も難しく、大変なことも多かった。2019年度はコアメンバーとして自分達のプロジェクトを立ち上げ、奮闘中。写真は2018年度最終成果報告会 質問タイムの様子。

プロジェクト・サポート募金のお願い

学校法人同志社
総長・理事長 八田 英二

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまで現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれられるべく努力をしております。

この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみならず皆様からご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくお願いたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務局)にお問い合わせください。

募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。



同志社ローム記念館 とは…

京都に本社を置く半導体メーカー、ローム株式会社の寄付をもとに2003年に設立されました。

学生・生徒が集う開放的な学びの空間があり、1年を通して様々な課題に取り組む、「同志社ローム記念館プロジェクト」の拠点としても活用される情報教育施設です。

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

プロジェクトが育むもの

2019年度プロジェクト紹介

2018年度最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会

OP訪問<特別編>

Vol.31
September 2019



プロジェクトが育むもの

ここでは、1年単位で新しいプロジェクトが立ち上がる。
立ち上がったプロジェクトに誘われて加入した1年生が、
次の年、リーダーとなり、またプロジェクトを立ち上げる。

メンバーとして必死でやってきた1年、
プロジェクトが何たるかを知り、技術力もついた。
自分がやりたいことも見つかった。

リーダーとなった新しい1年、
先輩達のいない自分達のプロジェクトには、
足りないことがたくさんあることに気づき、
また必死にもがき、新たな「らしさ」を見つける。

プロジェクトが、プロジェクトだからこそ、育めるものがある。

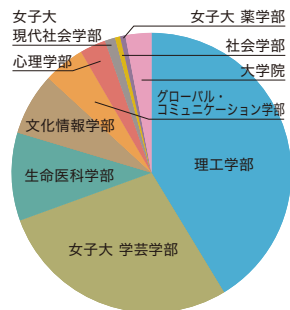
15年重ねてきたプロジェクト、
社会人経験を積んだかつてのプロジェクトメンバーが、
必死にもがくメンバーをアシストしてくれる、
そんなフェーズになった。



2019年度プロジェクトメンバー数

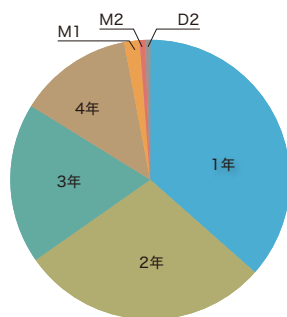
学部別

所属学部	人数
理工学部	69
女子大 学芸学部	47
生命医科学部	17
文化情報学部	12
グローバル・コミュニケーション学部	8
心理学部	5
女子大 現代社会学部	2
社会学部	1
女子大 薬学部	1
大学院	5
合計	167



学年別

学年	人数
1年	61
2年	48
3年	31
4年	22
M1	3
M2	1
D2	1
合計	167



年の初めに企てよう。

2020年度同志社ローム記念館プロジェクト 2020年1月20日(月) エントリー締切

さあ、今年は何をしようか？

たくさんある選択肢。
自分が夢中になれること、学生の今こそやってみたいこと、
仲間とだからやりたいこと…
ここでなら、できるかもしれません。

春からの新しい「プロジェクト」な学生生活、始めませんか？
応募要項は、同志社ローム記念館Webサイトで！



2019年度 プロジェクト活動レポート

本年度、選考を経て採択されたプロジェクトは7チーム。

先輩たちの思いを受け継ぎながら、「自分達ならではの」活動内容を悩みに悩んだ者、昨年度思うようにいかなかった、

そのリベンジを果たしたいと意気込む者、短期プロジェクトでの経験をもとに、「やりたいこと」を追求する者…

より良い成果を上げるために、より良いチームにするために、コアメンバーをはじめとするメンバーたちの限らない悩みの中で、今日もプロジェクトは動いている。



昨年度の短期プロジェクト「Demiurge(デミウルゴス)」に参加したメンバーが立ち上げたモノづくりプロジェクト。社会に貢献する新たな電子デバイスの開発を目指し、出したアイデアは数十件、そこから絞り込み、目標を定めたはずだった。

しかし4月、新メンバーを迎えて始まった活動、慣れないチーム運営の中、議論はふりだしへ。「技術にこだわりたい」「社会貢献度重視だ」…コアメンバーの熱い思いに応じて集まったメンバーだからこそ、それぞれの思いがぶつかり合う。コンテストへのエントリーは8月、ぎりぎりまで悩み抜き、つくったのは「一緒に暮らすと暮らす自然と良い生活習慣になる高齢者向けロボット「Tatalan」」。ルームオープンハックチャレンジ決勝出場が決まり、まだまだアツい日々が続く。



RM306

多々羅製作所

プロジェクトリーダー ▶ 浦上 直人(同志社大学理工学部2年次生) 参加企業 ▶ ローム株式会社
プロジェクト責任者 ▶ 松島 正知(同志社大学 生命医科学部助教)



あちこちで聞かれるキーワード「AI」や「アプリ」。その使い手から作り手へ変わるべく集まったのは情報系学科で学ぶ1年生6人。スマホアプリの開発を目指すが、専門的な知識や技術を教えてくれる先輩たちはいない。2年生に進級し、プロジェクトが始まった4月、メンバーに後輩を迎え、猛勉強の日々となった。

アプリ制作のみならず、サービスを取り巻く法令のこと、デザインのこと、リリースの手続きのこと、これまで考えた事もなかったさまざまな壁が次々と見えてくる。

目指すのは、同志社の学生のためのアプリ。自分達がターゲットユーザーでもあるからこそ、納得いくものを仕上げたい、と試行錯誤が続く。



RM207

WAPLI

プロジェクトリーダー ▶ 名田 佳代(同志社大学理工学部2年次生)
プロジェクト責任者 ▶ 土屋 誠司(同志社大学 理工学部教授)



京都府南部、奈良県との府県境に位置する「木津川市」。さまざまな魅力にあふれるこのまちを、大学生ならではの視点で、発掘・発信しようと冊子づくりに取り組んでいる。これまでの活動を知るメンバーと、新たに加わったメンバーの間には、知識や経験の差があり、活動への想いも違う。どうすれば一緒に話し合えるのか。チームづくりにも、伝統があるからこそ苦労がある。準備を重ね、フィールドワークに飛び出す。店舗での交渉では、お店の状況を判断しながら、自分たちの企画を伝え、店主さんの想いを聞く。そんな、臨機応変な対応が求められるが、事前のロールプレイングも空しく言葉が出ないことも。

力不足を痛感し、次こそは、と立ち向かう日々。自分達が目で、舌で、肌で感じたことを、冊子を通してどう伝えるのか、チーム「きづのもり」のプロデュースは続く。



RM307

きづのもり

プロジェクトリーダー ▶ 田邊 有弥(同志社大学理工学部2年次生) 参加団体 ▶ 木津川市 マチオモイ部
プロジェクト責任者 ▶ 飛龍 志津子(同志社大学 生命医科学部教授)



2年生がリーダーの新チーム、市役所の方や小学校の先生との打合せも、授業プランの組み立ても、子ども達が使う資料やツールづくりも、「こんなに大変だったんだ！」の連続だ。

自分達が考えていることをわかってもらうには？メンバーみんなでどう手分けするか？先輩たちが簡単にやってのけているように見えたことも、実はその裏に大変な苦労があったことを知った。9月の同志社国際学院初等部での授業を皮切りにどんどん忙しくなる活動、秋には、京田辺市内でのイベントや市立普賢寺小学校での授業が待っている。

自分達の良さを活かした新しいチームの「らしさ」を追求しながら、えこまな第二章の奮闘は、これからも続く。



RM206

えこまな@京田辺

プロジェクトリーダー ▶ 藤井 紀帆(同志社大学生命医科学部2年次生) 参加団体 ▶ 京田辺市・京田辺市教育委員会
プロジェクト責任者 ▶ 岸 基史(同志社大学 経済学部准教授)



昨年度までの経験をもとに、これまでとは違うセンサを用いて手掛ける今年の作品テーマは「サイバーシティ」。近未来の世界が表現され、手の動きや表情で街が変化、数人同時に楽しめる大型の作品だ。観客が参加することによって完成する「インタラクティブアート」、自分の動きで変化する作品を楽しんでもらいたいが、作品の体験者からは「何をしたら良いかわからない」という意見もまだまだ多い。明確なルールのある「ゲーム」ではなく、「アート」として受け入れてもらうにはどうすればよいのか、どのような体験を提供するのか、夏までの2回の体験会で見つかった課題に向き合い、最高の「サイバーシティ」への追求が続く。

RM308



アトリエフレームワークス

プロジェクトリーダー ▶ 大隅 博文(同志社大学理工学部3年次生)
プロジェクト責任者 ▶ 有賀 妙子(同志社女子大学 学芸学部教授)



国際交流したい！みんなで何かを創り上げる経験がしたい！デザインスキルを伸ばしたい！いろいろな思いを持って集まったメンバー。6月に開催したライブでは、エンターテインメント業界の一端を知るとともに、異国間でコラボしてライブを創り上げる苦労を実感した。ライブ構成の考案から 集客のためのフライヤーづくりに広報活動、さまざまな関係者との連絡調整など、何をどこまでやれば良いか、なぜ必要なのか、ひとつひとつ考え、当日をイメージして最善を探る。現在は、自分達が撮影し撮り貯めた素材をもとに、ライブのドキュメンタリー動画も制作している。プロジェクトとして、チームとして、メンバーの気持ちをひとつにしてどう高めていくのか、思い悩む日々が続く。

RM219



アジアの国々とメディアコンテンツを創る コラボレーションシステムの開発 KJ3プロジェクト

プロジェクトリーダー ▶ 森 陽菜(同志社大学文化情報学部3年次生)
プロジェクト責任者 ▶ 川田 隆雄(同志社女子大学 学芸学部教授)



さまざまな分野で急速に広がりを見せるVRだが、まだまだ身近なものとは言えない。ゴーグルを装着してのVR体験、その不快感や楽しみの因子は何なのか、「ダンジョンからの脱出」をテーマとしたVRゲームの開発を通してユーザー体験の研究に取り組む。自宅の限られたスペースでも「方向転換がスムーズでダンジョン内にいるように感じる」、「自分の動きの大きさや強さが攻撃の強さに合致する」、そう感じ、自然に体が動く、そんなゲームにするにはどうすれば良いのか…ゲーム第一弾は仕上がりがつつある。ユーザーであり、開発者、そして研究者、そんな学生プロジェクトだからできるゲームのつくり方がある。これからどれだけユーザーテストを重ね、その結果が反映できるか、彼らの挑戦は続く。

RM220



ProntiatVR

プロジェクトリーダー ▶ 村上 大将(同志社大学理工学部3年次生)
プロジェクト責任者 ▶ 大久保 雅史(同志社大学 理工学部教授)



秋に始まるプロジェクト募集から最終成果報告会まで、他のプロジェクトとは違い、継続的に活動してプロジェクトを支える学生チーム。ローム記念館の代表的な施設「劇場空間」を活用したイベントの企画・運営、広報活動などを通して自分達もスキルアップをはかる。劇場空間の機材操作はメンバーの基本スキル。会場の仕組みや機能への理解をイベント企画のアイデアにもつなげたいが、なかなかうまくいかない。きっちり伝わる、満足いく企画書、その完成までの道のりこそ険しいことも痛感。館のオープン以来受け継がれ44号を数える広報誌「ippo」は、フライヤーやイベントツールなど、いくつかのデザインを経験したメンバーが任せられ、後輩とともに迫る納期をにらみながら苦心する。大変だからこそ、おもしろい。ここ同志社ローム記念館で、自分達がやりたいこと、挑戦することを模索する日々が続く。

RM218



スタジオZero

Pick up!

ウェイクアップ&ステップアップ

コアメンバー数名で立ち上げたプロジェクト、目標達成に向けて必要なメンバーを集め、ようやくチームができあがるのは4月末。活動が本格化する時期に合わせ、プロジェクトメンバーの一員としての心構えや知識を提供し、活動を促進させるべく「ウェイクアッププログラム」が準備されている。

前年度の秋から準備を進め、コアメンバー数名で立ち上げたプロジェクト、目標達成に向けて必要なメンバーを集め、ようやくチームができあがるのは4月末。活動が本格化する時期に合わせ、プロジェクトメンバーの一員としての心構えや知識を提供し、活動を促進させるべく「ウェイクアッププログラム」が準備されている。

メンバーとしての心構えや、「プロジェクト」の推進に必要なルールを知るガイダンス、スキルアップのための勉強会などがあり、プログラムで得た情報や知識を、活動にどう活かすか考えながら、メンバーがプロジェクトに目覚めていく。

2019年度 ウェイクアッププログラム

4月25日(木)	「ポスターデザイン勉強会」
5月8日(水)・9日(木)	「プロジェクトガイダンス」
5月17日(金)・18日(土)	「トリプルシンキングセミナー」
5月21日(火)・23日(木)	「会計責任者連絡会」
5月24日(金)	「コンプライアンス勉強会」



たっぷり時間の使える夏期休暇、モチベーションを上げ、更に活動を活性化させるべく「ステップアップキャンプ」が開催される。2019年度のキャンプは、8月30日(金)～31日(土)の1泊2日、73名が参加した。物事の本質を正しく理解できるようになりたい、相手に理解してもらえよう自分の考えを言語化し、論理的に語れるようになりたい、もっとプロジェクト内のコミュニケーションを促進させたい、といったメンバーの思いを受け、スタジオZeroが企画。キャッチコピー「『あ、なるほど!』と1秒で言わせるメンバーになるう」で表した。

1泊2日のプログラムでは、元漫才師で、空気クリエイター研修講師の「正嶋松場」のお二人によるアイスブレイク、放送作家・コピーライター・CMディレクターとしても活躍の秋山理二郎さん(株式会社 第式表現 代表取締役)をお迎えしての動画制作ワークを中心に、プロジェクト混合チームによるワークショップや夜の交流会での企画を含め、メンバー全員が発信側・受信側それぞれの視点でコミュニケーションについて考える機会となった。



企業との連携プロジェクト

企業の視点や社会を知る、数ヶ月のプロジェクト。

与えられたテーマから、自分達のできることを、成し遂げたいことを設定し、チームで取り組む。

1年生も、3年生も、一緒に始めるメンバー同士、同じ目標を目指す同志になる。

企業の担当者の方とコミュニケーションをとること、合意形成し、自分達の考えを視覚化すること、

年齢、専門の違うメンバーとともに取り組む活動は、難しいと感じることもある。

でも、だからこそ、いつもと違った視点で物事を考え、新しく見えるものもある。

社会課題を解決する新しいシステムやサービスを創造しよう。

Oh! Do IT!

活動期間▶6月～2月 連携企業▶オムロン株式会社

今年のテーマは、少子高齢化が進むこの社会で考えたい「健康」の課題。集まった12名のメンバーは、3つのテーマをもとに調査やアイデアの考案を進め、運動すること、食えること、測ること、見守ること…さまざまな切り口で、課題解決のためのサービスを考え、議論を重ねた。

その結果、本チームで取り組むことになったのは「ひとり暮らしの高齢者の健康状態を遠く離れた家族へ知らせるトイレシステム」。毎日のいつもの動作から、知らず知らずのうちに血圧や体温、血糖値などを計測、その日の状態をお知らせできたら安心して過ごせるのではないかと。既存の商品や、開発途上の技術など関連する情報を集め、アイデアをブラッシュアップする。

オムロンの担当者の方からアドバイスをもらい、大きく頷いてはみたものの…センサなどの技術提供を他の企業に求めるにはどうすれば良い?自分達がやりたいことをパッと見てわかる資料にまとめるって?…初めて尽くして歩みが止まる。

しかし、止まっている暇はない。目指すは11月、オムロン社内イベント「おもしろまつり」ブースでの発表。焦りともどかしさを感じながら、メンバー達は目の前の課題に向き合い、ひとつひとつステップを登り続ける。



連携企業・団体を募集しています。

企業で活躍するってどんな感じ? 社会に通用するレベルとは?

自分の力を試してみたい! 何かをしっかりとやり遂げたい!

それぞれの思いを抱え、さまざまなメンバーがプロジェクトに参加します。

企業・団体との連携プロジェクトでは、担当者の方とのかかわりを通して、新しいものを生み出すことの意味、自分の考えを論理的に整理して伝えること、ひとつの課題にチームで取り組むための手法、コミュニケーションのあり方などなど、専門知識・技術のみならず、社会人として必要なさまざまな知識、知恵を学ばせていただいています。

イマドキ学生のメンバー達とともに取り組むプロジェクトにご興味をお持ちの企業・団体の皆さま、同志社ローム記念館事務室まで、お気軽にお問い合わせください。

2019年2月23日(土) プロジェクトメンバーにとって、年に一度の長い一日 2018年度 最終成果報告会

10:30 準備開始

報告会の運営はスタジオZeroが担当。
前日までに何度もリハーサルを重ね、今日を迎えた。
1年間、目標達成に向け努力してきたプロジェクト
メンバーにとって「最高の一日」にするための最後の
仕上げ。



12:00 最終成果報告会 開会

15年目のプロジェクトを締めくくる報告会。
9プロジェクト約100名のメンバーが着席し、劇場空間に緊張感が漂う。
眠れなかった夜を過ごし、いよいよプレゼンテーションの時間。1年間が12分に凝縮して
語られる。
みんなで頑張ってきた活動の成果、思いを背負い、マイクを握る手も震える。



14:45 質問タイム

想定問答もみんなで考えて対策もバッチリのはず。
それでも、10人以上の審査員から次々と質問を受けると思うとまだまだ緊張は続く。
駆けつけてくれたOP(Old Project-member)からの「いいプレゼンだったよ」の言
葉にほっと一息。



16:20 交流会第一部「DR-1グランプリ」

審査を待つ間、メンバー同士、しばしリラックスして楽しむ交流企画。今回は、
メンバーひとりひとりに着目し、楽しく語るグランプリ。笑顔が素敵なメン
バーに贈られたS-1賞(スマイル賞)、プロジェクトルームをフル活用したメン
バーに贈られたR-1賞(ルームの住人賞)、絵描き歌にあわせてステキな絵を描
いた人に贈られたC-1賞(クリエイティブ賞)、事前の投票や当日のパフォーマ
ンスで選ばれる各賞に会場が沸いた。チームづくりに欠かせないM-1賞(ム
ドメーカー賞)には、圧倒的な存在感を示す納得の名前が連なった。



16:40 選考

楽しい企画の裏側では、最も素晴らしい活動・成果をあげたプロジェクトに授与さ
れる「同志社ルーム記念館大賞」をはじめ、今回新たに設置された「同志社総長賞」
など各賞の選考が行われていた。建学の精神にもとづき、「果敢なチャレンジ」や「全
国・世界に誇れる」ことを評価し、讃える「同志社総長賞」。初めての授賞とあって、
委員会でさまざまな意見が飛び交う。

17:20 同志社ルーム記念館 大賞発表会

メンバー間相互評価で選ばれる「僕らの同志社ルーム
記念館大賞」を皮切りに、各賞が発表されていく。
「同志社総長賞」は、その賞の設置とあわせて受賞プロ
ジェクトが発表された。思いがけない授賞にとまどい
を隠せないメンバー達。



18:00 交流会第二部

大賞受賞プロジェクトのリーダーが
乾杯の音頭をとるのが恒例。ようや
く緊張が解け、メンバーの笑顔がこ
ぼれる。



19:00 解散

えこまな@京田辺

- プロジェクトリーダー/高木優哉(同志社大学工学部4年)
- プロジェクト責任者/畠山 啓(同志社女子大学現代社会学部助教)
- 参加団体/京田辺市役所 経済環境部 環境課
- メンバー数/15名



授賞理由 2015年度からの継続的な取り組みを通して京田辺市をフィールドとした環境教育活動で着実な成果をあげてきた。特に今年度は、これまでの小学生対象の環境教育授業や教材開発に加え、京田辺市と協力して学生や社会人を巻き込んだスポGOMIという活動を企画開発するなど、活動範囲を広げている。
また、環境に関心をもつ全国の大学生が一堂に会するecocon2018に参加して会場賞を受賞するなど、活動のステージを大きく広げた。達成度、オリジナリティとともに同志社ローム記念館大賞にふさわしい成果をあげたと評価できる。



良質な環境教育プログラムをつくるには、自分達もインプットを止めてはいけない。「田辺公園自然探検隊になろう!」の開催や「環境フェスタin KYOTANABE」への出展、学生や社会人を巻き込んだ「スポGOMI in 京田辺2018」企画運営への参画など、さまざまな切り口で「環境」を考えたことはプラスになった。これまでの活動実績をひきげ参加した「ecocon2018全国大学生環境活動コンテスト」では、環境教育に特化した地道な活動や、動画を効果的に使ったプレゼンテーションが評価され、初参加ながら、「会場賞」を受賞することができた。周りのメンバーに支えられながら、常にさまざまなことに挑戦してきたリーダーの高木くん。1年生の頃から4年間、生活の中心はいつも「えこまな」だったと言っても過言ではない。今回のecoconを機に、自分達がやってきたこと、活動への思いもしっかり伝え、「えこまな」のバトンを後輩たちに渡す決めていた。残念ながらecoconのグランプリは逃したものの、そこにかけた熱い思い、「えこまな」らしさへのこだわりは、後輩たちへと受け継がれるはずだ。

プロンティアットVR

- プロジェクトリーダー/村上大将(同志社大学工学部2年)
- プロジェクト責任者/大久保雅史(同志社大学工学部教授)
- メンバー数/19名



授賞理由 国際的な取り組みへの参加や数多くの体験会の実施などを通じて自分達の日頃の研鑽の成果を積極的に発信し、外部からの評価を得てブラッシュアップして目標に近づける姿勢を高く評価する。また、その成果として完成されたマルチVRゲームのクオリティも非常に高く、厳しい審査を経てSteamでの配信を実現したこと、また早々に多くの反響を得ていることも、たいへんすばらしい。この経験を活かし、これからも世界に通用するものを目指してチャレンジし続けてほしい。



シングルプレイのVRゲーム特有の孤独感を払拭しようと、複数人で楽しめる「マルチVRゲーム」を追求、本プロジェクトの成果として開発した「Magic Combat VR」は、PCゲームの世界的な配信プラットフォーム「Steam」での配信が叶い、大きな反響を呼んだ。

ゲーム完成までにプロジェクトで開催した体験会は10回、のべ1800人を超える体験者の声をもとにブラッシュアップしてきた。また、世の中のマルチVRゲームを紹介するおすすめサイト「おすまる」の企画・運営や学内外でのイベント出展など、マルチVRの魅力を伝え続けた。さまざまな分野への応用も期待されるVRの技術。学生プロジェクトとして、独自の切り口でVRを捉え、世界へ打って出る、そんな更なる活躍が期待される。

「同志社総長賞」同志社建学の精神にもとづき、自由な発想・考え方で果敢にチャレンジしたプロジェクト、または、全国・世界に誇れる活動を展開したプロジェクトに授与する。
同志社ローム記念館オープン15周年を記念し、新たに設置されたこの賞を受賞するには、「同志社ローム記念館大賞」と同様に、精力的な活動と高いレベルの成果が必須である。
初の「同志社総長賞」は、外部審査員からの評価も高く、大賞受賞プロジェクトから僅差で2位につけた「プロンティアットVR」が、その栄誉を手にした。2019年度以降、「自由な発想・考え方」「果敢なチャレンジ」「全国・世界に誇れる活動」を讃える「同志社総長賞」は、狙うは大賞、また更に上を目指してほしいとの思いから、「同志社ローム記念館大賞」を受賞したプロジェクトを対象として選考し、授与する賞として、継続して設置されることとなった。

アトリエフレームワークス

- プロジェクトリーダー/大須賀智輝(同志社大学生命医科学部3年)
- プロジェクト責任者/有賀妙子(同志社女子大学学芸学部教授)
- メンバー数/15名



授賞理由 インタラクティブアートの大衆化を目的に多数の作品を制作してきた。メンバーが協力し合い、活動で得た教訓を活かしながら問題点の解決に向けた創意工夫を重ねたことが発表からも良くわかった。多くの発表機会やコンテストを活かして積極的に成果を発信したことは高く評価できる。目標達成に向けて、イオンモール高の原での展示をはじめ、自分達で発表機会を創出しており、1000人以上の観客に成果を披露したことはとても素晴らしい。

Activity report



アジアの国々とメディアコンテンツを創る
コラボレーションシステムの開発

KJ3プロジェクト

他国の若者たちと連携・協力してコンテンツ開発をするためにはどのような工夫が必要か。コラボレーションシステムにたどりつくべく、本年度は、ローム記念館劇場空間でのK-POPライブをプロデュースした。



S.D.S Slope どうで Show

京田辺キャンパスへの通学路、駅から続く坂道の負担を軽減するため、「電動ローラースケート」を最終目標にスタートした活動。自転車などをもとに坂を登れる機体の機構を研究。まずは荷物を運べる機体の開発に取り組んだ。

きづのもり

- 参加団体/木津川市マチオモイ部
- メンバー数/17名

学生間評価賞
僕らの
同志社ローム記念館
大賞
受賞!



授賞理由 他のプロジェクトに比べて「達成度」が明確に高かった点、また、映像のみならず、紙媒体の冊子にまできちんと展開されていた点を評価した。
その冊子を作る過程において、メンバー皆で意見を出し合い、コンペをし、侃々諤々議論をし、煮詰めていったプロセスは「正しい悩み方」と言え、そういう工程に関して手を抜かず、逃げずに行っていたことに審査員一同、好感を持った。それらの過程が、冊子のクオリティとして現れていた。
また、仕上がった冊子の内容は市(行政)ではなかなか作りがたい、学生ならではの視点のものであり、その振り切り方も面白かった。“怒られそうなギリギリ”を攻めることこそ、学生の存在意義であり、“誰かに振り返ってもらえるクオリティ”はそこからしか生まれない。これからも、プロジェクトを目いっぱい楽しんで、面白がりがながら活動して欲しい。

Pick up!

「きづのもり」LUMIX MOVIE FESTIVALで優秀賞を受賞!

1月26日(土)、木津川市との連携による短期プロジェクト「きづのもり」は、パナソニックセンター東京で開催された「LUMIX MOVIE FESTIVAL」に出場した。

このイベントでは、「地元愛」をテーマに、各地で制作された映像作品の上映会・ブース出展が行われた。「きづのもり」が制作した映像作品

「二番目なら」は、木津川市の高校生・木津くんが、仏像好きの同級生女子を浄瑠璃寺へデートに誘い、そこで衝撃の事実が発覚するというストーリーだが、会場の投票により、見事第二位となる優秀賞を受賞、表彰された。作品は、Webサイト (<http://www.kizunomori.com/story/story-553/>) でも公開中。



2018年度 短期プロジェクト

Activity report

デミウルゴス Demiurge

ローム株式会社主催のプロトタイプ作品のコンテスト「ROHM OPEN HACK CHALLENGE 2018」に出場すべく、7月にスタートした。たくさん出したアイデアから選んだテーマは「モノとのコミュニケーション」。人々の生活に溶け込み、「おかえりなさい！」と部屋の雰囲気や音を良くしたり、言いにくいことを代わりに伝えてくれる扉「iTobira (アイトビラ)」を開発した。チームでの開発は初めてのメンバーばかり。プログラミングや電子工作からエントリー書類の作成まで、どれも試行錯誤の連続。一次選考を通過し、臨んだ最終審査会では、周りの作品のアイデアのすばらしさ、レベルの高さに圧倒されながらのプレゼンテーション、悔しさの残る結果となった。



ASAP One (Android Smartphone Application Project One)

連携企業：パナソニック株式会社

マニュアルカメラの機能を使ったアプリ開発を目指すプロジェクト。初めてのプロジェクト、初めてのアプリ開発、わからないことだらけでなかなか前に進めない時期もあった。開発したのは、顔を撮影し、そのデータから独自に算出した属性とHPでバトルするAndroid用アプリ「あなたもヒーロー」。振り返れば、「もっとできたはず」との思いもあるが、体験会での、子どもたちの笑顔は、何よりうれしかった。



Oh! Do IT!

連携企業：オムロン株式会社

知らず知らず身体データを測定できたら…VR技術を使って家にいながらスタジオにいる気分でエクササイズができたなら…そんな思いが融合、1日の消費カロリーから不足した運動量を計算し、ユーザーに最適なエクササイズ動画をVR空間で再生するシステム「ながらVR」の開発を目指した。それぞれの得意分野をいかし、開発や動画制作、マーケティング、分析を進めた。理想の形には至らなかったが、オムロン社内イベント「おもろまつり」で体験して頂いた人からの反応が励みになった。



Pick up!

大きな「ノキシタ」に集まろう！

2018年、オープン15周年を迎えた同志社ローム記念館。正門前に立地し、地上3階のフロアが大きく張りだした特徴的な建物は京田辺キャンパスのランドマークとなっている。

150人を収容する階段状の開放的なイベントスペース「劇場空間」、広い「ノキシタ」からベーカーリーカフェ「ジョアミ」のある1つ上のフロア「多目的スペース」まで、いろいろな使い方ができる。

15周年記念イベントでは、「ノキシタOO」のシリーズで、6つのイベントが開催された。

プロジェクト主催イベントだけでなく、学生団体や企業フェアなどの学生向けイベントでの利用もできる同志社ローム記念館、ぜひいろいろな形で活用ください。お申し込み、お問い合わせは同志社ローム記念館事務室まで！



Pick up!

イオンモール高の原で「プラネットステア」開催

2019年2月16日(土)～2月17日(日)、アトリエフレームワークスによるインタラクティブアートの体験イベントが、イオンモール高の原 こすもすホールで開催された。

このイベントに先立ち、1月に同志社ローム記念館内で同内容のイベントを開催、その反省点を踏まえ、より多くの人にとってわかりやすく楽しめるよう改善し、世界観を楽しんでもらえるよう会場の装飾にも力を入れた。会場に映し出された星空の世界では、自分の体の形がそのまま星座になる「自分座」が現れたり、動きに合わせて星雲や流星群を作り出したりすることができ、来場者を楽しませた。当日は、土日ということもあり子供連れのご家族など多くの来場者を迎え、2日間で200名近い人たちにインタラクティブアートを楽しんでもらうことができた。



イベント報告

2019年1月～
2019年8月



**同志社ローム記念館
オープン15周年記念イベント
「ノキスタ運だめし」**

1月7日(月)～1月11日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト
「スタジオZero」



play_play_play
4月25日(木)
主催：同志社女子大学 現代こども学科
girls Media Band



願いよ届け！ローム天の川
7月3日(水)～7月5日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト
「スタジオZero」



**日韓フレンドシップライブVII
K-POPライブ×Voice percussion
with Student TRIGGER**
7月10日(水)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト
「アジアの国々とメディアコンテンツを創る
コラボレーションシステムの開発(KJ3)」

● イベント

マルチVRゲーム体験会
1月10日(木)・1月11日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「ブロンティアットVR」

TED-Ed Dokoku
2月15日(金)
主催：同志社国際高等学校

**2018年度同志社ローム記念館プロジェクト最終成果報告会・
同志社ローム記念館大賞発表会**
2月23日(土)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会

第13回 全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺
3月3日(日)
主催：全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺 実行委員会

ボランティアフェア～V-NET新歓交流会～
4月3日(水)・4月23日(火)
主催：同志社大学 学生支援センター ボランティア支援室

知ってみよう！同志社ローム記念館プロジェクト～プロジェクト別説明会～
4月8日(月)～4月11日(木)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」

同志社室内楽団京田辺新歓ランチタイムコンサート
4月12日(金)
主催：同志社室内楽団

話してみよう！プロジェクトメンバー～プロジェクト交流会～
4月12日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」

同志社クローバー祭説明会
4月19日(金)
主催：同志社クローバー祭実行スタッフ

TOEFL説明会
5月7日(火)・5月8日(水)
主催：同志社大学 国際課

ALL DOSHISHA 共修プログラム成果報告会
5月24日(金)
主催：同志社大学 理工学部・理工学部研究科

Doshisha Spirit Week 2018春「同志社大学応援団 演舞」
6月3日(月)
主催：同志社大学 キリスト教文化センター

Eステ
6月6日(木)
主催：同志社女子大学 現代こども学科

同志社大学理工学部紹介・施設見学会
6月8日(土)
主催：同志社大学 理工学部

阿波踊りを体験しよう？～Season 2～
7月6日(土)
主催：同志社大学 留学生課 SIED

2019年度プロジェクト科目 春学期成果報告会
7月28日(日)
主催：同志社大学 プロジェクト科目検討部会事務局

● 展示

プラネットステア
1月16日(水)～1月18日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「アトリエフレームワークス」

同志社クローバー祭アンケートブース
4月22日(月)～5月10日(金)
主催：同志社クローバー祭実行スタッフ

インタラクティブアート「サイバーシティ」
7月16日(火)～7月21日(日)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「アトリエフレームワークス」

夏の省エネ うちわ配布
7月6日(土)
主催：同志社エコプロジェクト(DEP)

インタラクティブアート勉強会

8月23日(金)
主催：同志社ローム記念館プロジェクト「アトリエフレームワークス」



見て、体験するだけでなく、「つくる」側の人を増やしていきたい。そんな思いで企画された勉強会。中学生、高校生が参加し、自分でデザインしたキャラクターが声にあわせて動く作品を制作。発表も大いに盛り上がった。

OP (Old Project-member) 訪問<特別編>

プロジェクトが育んだつながり



プロジェクトは1年間で、プロジェクト同士はみんなライバル。

他の課外活動と違い、上下関係や、メンバー同士のつながりが生まれにくい環境だと言える。

それでも、活動が終わり、卒業してみれば、ともに1年を戦った者同士、ある意味、連帯感が生まれるようだ。

「あの頃は大変だったけど、楽しかった」「世代は違うけど、わかる!!」活動した時期や取り組んだテーマは違っても、プロジェクトルームに集まり、目の奥が痛くなるほど作業に没頭したり、泣きながら議論したり、夜の企画会議で迷走したり…馬鹿なことを言って大笑いした経験はみんな同じ。

「ROHM=HOME」

2012年度の中間報告会で、同志社ローム記念館の活性化を目指し、劇場空間で数々のイベントを開催した「舞台計画」が掲げ、発表した活動目標だ。当日参加していたメンバーからも、OPからも、「そうだね!」と賛同を得て、今でも時々聞かれるフレーズとなっている。

ここ同志社ローム記念館には、遠くにながらも、いつ

も、自分たちの「HOME」だと、気にかけてくれる心強いOP達がいるのだ。

最近どうですか?とメッセージをくれる人、近くまで来たので…(京田辺キャンパスは駅から遠いが)と、顔を出してくれる人がある。「こんなことなら、できますよ」と声をかけてくれる人、「あの人に頼んだらどうかな?」と別のOPを紹介してくれる人、報告会にいつも顔を出してくれる人…プロジェクトで育まれてきたつながりが、後輩たちとの新たなつながりを生み出している。

本年度、「ウェイクアッププログラム」では専門を活かした講師として、報告会では外部審査員として、各フィールドで活躍するOPが、ここ同志社ローム記念館にやってきてくれる。

この広報誌「DJR」には、社会で活躍しているOPを紹介すべく「OP訪問」というコーナーがあるが、15年の時を経て、「OPが訪問」し、後輩たちを育ててくれる、そんな時代になった。

この場をお借りして…OPのみなさん、いつもご支援ありがとうございます。

また、「OP訪問」もさせていただきます。

これからも、どうぞよろしくお願いたします。